



since 1926

自分が好き 友だちが好き このまちが好き

横浜市立下野谷小学校

学校だより

7 月号

令和3年6月30日

ほうし こころ うつく 奉仕の心は美しい

こうちょう たかはし よしなり
校長 高橋 義成

朝の7時過ぎのことです。私が出勤すると、学援隊の方が家庭ごみの収集場所を一生懸命に掃除されていまして。だいぶカラスにやられてしまっている様子が一目見て分かる状況でした。それにもかかわらず、道路一杯に生ごみが広がっている所を黙々と片づけておられました。「なんで私がやらなければならないのだ。」と思ってもよい場面ですが、機敏な動きの中には全く感じられませんでした。

日頃より、雨の日も風の日も無償で子ども達を見守ってくださる学援隊の皆様、改めて感謝の気持ちをもつことができました。自分たちの住む町を自分たちですこすこでもきれいにしたい、町の子ども達に事故無く安全に学校に通ってほしい、などの責任感と愛情などに包まれていることを実感します。この行いは、ごみの収集場所をきれいにしただけでなく、この道を利用している人々の心まできれいにしてくれたことと思います。このような姿やお気持ちは、子ども達に積極的に学ばせたい内容です。地域行事やふれあい給食、地域の納涼祭、したのやまつりなど、本校の強みである「地域の方から学ぶ」ということが、もう少し我慢すればきっとできると信じて、本校でも思いやりや責任感などを学べるように努めていきたいです。

実は学校の中にも奉仕の心が見られることがあります。秋から冬にかけて、正門前の「ふれあい広場」が落ち葉で埋め尽くされてしまいます。毎朝、登校した子ども達が池の周り全体に広がって落ち葉を集めています。毎日取り組んでいるのですが、それでも大きなごみ袋3つ以上は落ち葉が集まります。また、今年度のことですが、なぜか1年生と2年生の有志の子ども達が、中休みに職員室や校長室、保健室の前の廊下を掃除してくれています。校長室の扉のレール付近に掃除機をかけている1年生の子が「校長先生、今何時?」と必ず聞いてきます。「あと3分で中休みが終わるよ。」という、「かたづけいそげ!」と周りに声をかけて教室に帰っていきます。時々、掃除機が置いたままになっていることもあるのは、ご愛敬です。話を聞いてみると、職員玄関や廊下にある観葉植物などに水やりのお手伝いをしたいということから活動がスタートしたそうです。「どうしてはたらいてくれるの?」と聞くと「ありがとうと言われるのがうれしいから。」と言っていました。私の自宅でも息子や娘には仕事を与えています。が、家でも「ありがとう」をしっかり言わなくては・・・と反省させられました。

PTAの方々より、学校の周りの草取りやごみ拾いをしたいとの話が出ています。確認すると、植え込みにごみが捨てられている所もありました。ありがたい気づきです。この町全体が子ども達を中心においた取組であふれています。

(地域の方に日々ご協力いただいたおかげで、より安全になりました ☺)

